

スタッフのおすすめ新刊本

『ハッブル宇宙を広げ男』

家正則/著 岩波書店 Y289.3/ハ

「ハッブル宇宙望遠鏡」を知っていますか？
「宇宙が膨張している」ことを発見した
科学者エドウィン・ハッブル（1889－1953）に
ちなんで名付けられています。
現代の宇宙観の基礎をつくったハッブル、
その栄光と挫折の人生が描かれています。



『フラダン』

古内一絵/著 小峰書店 Y913.6/コ

表紙の今中信一さん装画のインパクトが強すぎて
思わず手にとってしまいます。男女混合で
フラダンス甲子園出場を目標に集められた、
4人の男子とフラダンス愛好会の女子たち。
東日本大震災5年後の福島の今と工業高校生
たちの姿が鮮やかに描かれた作品です。



ちくまプリマー新書より

『身体が語る人間の歴史』片山一道/著 Y469/カ

『新聞力』齋藤孝/著 Y070/サ

『冒険登山のすすめ』米山悟/著 Y786.1/ヨ

『レジリエンス入門』内田和俊/著 Y146.2/ウ

『歌舞伎一年生』中川右介/著 Y774/ナ

『文学部で読む日本国憲法』長谷川権/著 Y323.1/ハ

YAブックリスト第31号

平成28年11月発行

稲城市立中央図書館 稲城市向陽台4-6-18

電話：042-378-7111 FAX：042-378-7162

<https://www.library.inagi.tokyo.jp>



天体観測

“秋の日はつるべ落とし”といいますが、あっという間に暗くなり、
季節の移ろいを実感します。
古来より人は、空を観察して時を知り、観測して暦をつくり、
それにのっとって生活してきました。
今回は、天文に関する本を集めてみました。
空の彼方に思いを巡らせてみませんか。

『天地明察』

沖方丁/著 角川書店
913.6/ウ



太陽暦と地球の自転速度のズレを修正するために設
けられた「閏年^{うるどし}」は4年ごとの2月に「29日」が
追加され1年が366日になります。
江戸時代、唐の宣命暦を長らく使っていたために
季節と暦のズレが拡大し日常生活に支障をきたして
いました。その誤差を指摘し、初めて日本独自の暦
【貞享^{じょうきやう}暦^{れき}】を作った初代天文方^{てんもんかた}・渋川春海^{しぶかわしゅんかい}の生涯
が描かれています。会津藩主・保科正之^{ほしなまさゆき}や水戸藩主・
徳川光圀^{とくがわみつくに}、和算家関孝和^{せきぎらめかす}らも登場します。
普段、私たちが当たり前のこととしてある「カレン
ダー」や「時間」について一考察を与えてくれる一
冊です。

『カレンダーから世界を見る』中牧弘允^{ひろちか}/著 白水社 Y449.3/ナ



『天文台へ行こう』

古在由秀/著 岩波書店 Y442.1/コ

“いったい何を期待して「天文台に行ってみたら？」というのでしょうか”という書出しではじまるこの本の著者は、天文学者で初代国立天文台長を務めるなど天文台を知り尽くしたプロフェッショナルです。
天文台の歴史や基礎知識、望遠鏡のほかに、実際に天文台を利用する楽しみ方や天文で職を得る方法などが、わかりやすく紹介されています。

『新・天文学入門』

嶺重慎・鈴木文二/編著 岩波書店 Y440/ミ

『プラネタルウム男』

大平貴之/著 講談社 Y440.7/オ

『インターネット望遠鏡で観測！現代天文学入門』

慶応大学インターネット望遠鏡プロジェクト 森北出版 440/イ

『探査機はやぶささん』

オレンジゼリー/著

エンターブレイン Y538.9/オ



小惑星のサンプル入手に成功という世界初の快挙を成し遂げた小惑星探査機「はやぶさ」のちょっとかわった入門書。
大胆にも探査機少女「はやぶささん」として擬人化されて宇宙冒険の旅が4コマ漫画で紹介されています。
読み終えたあとは「はやぶささん」と一緒に幾多の困難を乗り越えた達成感で胸が一杯になります。
4コマごとに JAXA 監修の解説がついているのであなたもきっと惑星探査機通になれます。

『とんでもなくおもしろい宇宙』

柴田一成/著 KADOKAWA Y440/シ

『宇宙と生命の起源2 素粒子から細胞へ』

小久保英一郎/著 岩波書店 Y440.1/ミ

『宇宙就職案内』

林公代/著 筑摩書房 Y538.9/ハ

『未確認飛行物体 UFO の奇妙な真実』

ポール・ホワイトヘッド/著
創元社 Y440.9/ホ



『天気と海の関係について』

わかっていること いないこと

和田章義/著 ベレ出版 451/ワ

2016 年夏、日本の南の海を迷走の末の岩手県大船渡市付近に上陸した台風 10 号は、1951 年に気象庁が統計を取り始めて以来、初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風となった。
地球の表面約 7 割を占めている海は、大気と密接につながっていて影響を与えている。

「天気予報は当たらない」と思う人はぜひ読んでみて下さい。
空と海の関係を探るさまざまな研究が国内外で行われています。気象学の最前線で活躍する研究者自身がその研究の概念をわかりやすく解説しています。

各章は独立しているのでどの章からでも読み始められます。

『天気予報が楽しみになる本』

渡辺博栄/監修 数研出版 Y451/ワ

『天気ハカセになろう』

木村龍治/著 岩波書店 Y451/キ

『地学のツボ』

地球と宇宙の不思議をさぐる

鎌田浩毅/著 筑摩書房 Y450/カ

地学は暗記科目と思っている人！

この本を読むと地球のダイナミックな姿がみえてきます。地震と火山のこと、地球内部、歴史、地球の変動による生物の大絶滅と進化、大気と海洋、そして地球の外。

進化を続ける宇宙への探求。

地学は文字通り「地を学ぶ」学問なのです。

『星の声に、耳をすませて』

林完次/著 講談社 Y440/ハ

『月のきほん』

白尾元理/著 誠文堂新光社 Y446/シ

『星と宇宙がわかる本①太陽を探る』

縣秀彦/著 学研教育出版 Y440/ア

あんな本・こんな本!!

見て読んで調べる大図鑑シリーズより

『地球』

マット・ターナー/著

ランダムハウス講談社 Y450/タ

『気象』

ジョン・ウッドワード/著

ランダムハウス講談社 Y451/ウ